

## 4. 新聞等に掲載された研究

### 解剖学第二講座

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
分 部 哲 秋・講 師	中国地方における古墳時代人の研究	中 国 新 聞	'92.12.4	4～5世紀に造られた首長級の高塚古墳(広島県)から人骨が発見され、顔面形態および推定身長が調査された。この研究は当時の人々の生活や日本人の成立過程を解明する上で貴重で、また社会的に興味を持たれている。
長 島 聖 司・教 授	中国地方における古墳時代人の研究	朝 日 新 聞	'92.12.5	
		毎 日 新 聞	'92.12.13	

### 細菌学講座

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
日 野 茂 男 助 教 授	HTLV-1の母児感染防止の研究	朝 日 新 聞	'90.6.21	HTLV-1の母乳感染に関し、人工哺育への切換えについて、感染告知、効果、精神的面への影響等から、賛否両論がある事の紹介記事。
宮 本 勉 教 授	乳酸菌と健康	NBCラジオ	'91.9.2	乳酸菌を中心に細菌や他の微生物と人間とのかかわり合いについてインタビュー形式で解説。菌の性質、人間との共生関係による利点・欠点、癌・免疫・感染症への影響、健康増進のための食事内容についても解説。
	細菌と健康	NBCラジオ	'91.9.9	
	乳酸菌の話(I)	NBCラジオ	'91.9.16	
	乳酸菌の話(II)	NBCラジオ	'91.9.23	
	乳酸菌と健康	NBCラジオ	'91.10.1	

## 衛生学講座

氏名・職名	研究題目	掲載誌紙	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
守山正樹 助教授	健康教育と顔グラフ	朝日新聞	'90.12.1	検診結果を顔の表情を用いた図(顔グラフ)でわかりやすく表現し、検診受診者の理解を深める。
齋藤寛 教授	炭鉱閉山の島・高島町民の健康	長崎新聞	'91.8.25	炭鉱閉山の後、急激な人口流出がおり高齢化した高島で人々はどんな健康問題を抱えているかを明らかにする。
齋藤寛 教授	環境中微量元素の健康影響	北海道新聞	'91.10.10	環境中微量元素の健康影響の解明。
守山正樹 助教授	検診結果のグラフ表示	日本経済新聞	'92.4.11	保健医療サービスの提供側と受け入れ側のコミュニケーションを高める。
岩田孝吉 講師	長崎県対馬のカドミウム環境汚染の健康影響	長崎新聞	'92.9.23	カドミウム汚染地域住民のカドミウムによる腎障害と死亡率に関する研究。

## 原爆後障害医療研究施設 異常代謝部門

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
佐藤宇史 教授	糖尿病における血管内細胞障害の成立機序—特にグルタチオン合成酵素の発現調節との関連性	長崎新聞	'93.8.8	成人病の予防や治療に結びつく研究として評価されている
後藤信治 助手	酸化ストレスに対する細胞内グルタチオン代謝、特にシスプラチンの解毒に対する役割	バイオテク産業新聞	'93.9.15	ガン研究の進展を社会および研究者に紹介したもの

原爆後障害医療研究施設 放射線生物物理学部門

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
奥村 寛 教授	長崎大センター問答形式の本作り	読売新聞	'89. 8. 24	長崎原爆とその影響について、Q & A形式でわかりやすく解説する本を計画した。その経過を報告している。
奥村 寛 教授	爆心2 <sup>km</sup> 内、200ラド被爆、女性に多いがん死亡、長崎大調査	長崎新聞	'89. 8. 30	長崎原爆に被災した被爆者の発がん率を解析し、日本放射線影響学会に報告した。爆心2 km以内の200ラド被ばくした女性にがん死亡率が高かったことを示した。
奥村 寛 教授	サイエンス 毒か薬か微量放射線健康にプラス効果?	日本経済新聞	'89. 9. 17	放射線はどんなに微量でも害があるかの疑問に対して低線量放射線の解析結果を示した。ホルミシス効果といわれ、低線量放射線は生体に対して刺激効果のあることを紹介した。
奥村 寛 教授	ふるさと人国記 被ばくしゃの老化に焦点	読売新聞	'89. 11. 9	原爆被災の医学的な実態を明かにした段階で、次は被爆者の老化に焦点をあてて研究体制を整えている。
奥村 寛 教授	東長崎地区は19地点、残留プルトニウム調査	長崎新聞	'90. 8. 30	原爆の黒い雨による残留放射能プルトニウムを調査することが発表された。測定の実施は、長崎大学医学部原研が担当することとなった。
奥村 寛 教授	フラッシュ長崎 長崎県、市、残留放射能測定へ調査委員会、被爆地域を拡大へ	西日本新聞	'90. 8. 31	原爆による残留放射能を測定し、被爆地域の拡大のための科学的な根拠を示すデータを得る計画が示され、長崎大学医学部原研が協力することになった。
奥村 寛 教授	「長崎原爆とその影響」 長崎大学医学部で公開講座	西日本新聞	'90. 9. 30	公開講座が開かれ、50人の定員に対して67人の参加があった。原爆の影響についての研究成果が市民にわかりやすく紹介された。
奥村 寛 教授	原爆被害を医学的側面から 長大公開講座始まる	毎日新聞	'90. 9. 30	原爆被害について医学的な研究成果を紹介する公開講座が開かれた。受講者は約60人でその大半が被爆者やその関係者であった。
奥村 寛 教授	放射線微量なら人体に有益?	日本経済新聞	'90. 11. 17	微量な放射線の影響はわかっていない。微量な放射線は刺激効果をもたらす、人体に有益に働くことのある実験結果を紹介した。

奥村寛教授	焦点視点 残留調査大詰め、プルトニウム	読売新聞	'91. 3. 7	原爆によるプルトニウム残留放射能調査が進み、結論がでる段階になった。その結果に期待がよせられている。
奥村寛教授	原爆被爆地域問題検討会 北高来郡飯盛町でも確認、プルトニウム調査	長崎新聞	'91. 6. 26	長崎大学医学部が担当している原爆プルトニウムの調査結果は、爆心地より東方14kmの位置でも存在が確認された。これは今まで予測できないことであった。
奥村寛教授	ナガサキの黒い雨 9地点で残留放射線	長崎新聞	'91. 7. 12	原爆残留放射線の調査では、調査した地域で現在でも9地点に存在することが測定された。この評価が大きかった。
奥村寛教授	ナガサキの黒い雨 どう見る調査データ	長崎新聞	'91. 7. 13	原爆プルトニウム調査の報告が出されたが、これをどのように生かしていくかに希望と戸惑が示された。
奥村寛教授	ナガサキの黒い雨 無念さ隠せぬ自治会、検出限界	長崎新聞	'91. 7. 14	プルトニウム調査において黒い雨が降ったにもかかわらず検出できない地区があった。原爆直後であれば検出できたかもしれないのに、調査の限界を示された。
奥村寛教授	ナガサキの黒い雨 線引で矛盾生じるいびつな被爆地域	長崎新聞	'91. 7. 15	プルトニウム調査結果はいびつな被爆地域の是正に役立つことが期待され、科学的に評価されることが望まれる。
奥村寛教授	ナガサキの黒い雨 判断迫られる県と市	長崎新聞	'91. 7. 16	原爆放射能調査は化学的に行われた。これを行政的にいかに活用されるかが問われている。
奥村寛教授	調査へある渡米、原爆資料委、3人派遣	中国新聞	'92. 3. 14	米国に存在する長崎・広島原爆の資料を調査するために長崎大学及び広島大学の調査団が発発した。
奥村寛教授	被爆体験手記などデータベース作成へ、ネットワークが報告書	読売新聞	'92. 3. 14	原爆被災の情報データベース化するために計画する報告書を作成し、厚生省に提出した。
奥村寛教授	長崎原爆残留プルトニウム調査報告書	長崎新聞	'92. 4. 24	長崎原爆の残留放射能調査に基づいて厚生省は検討を始めた。
小松賢志助教	南ア産ハーブに発がん抑制効果 ハーブ茶に発がん抑制効果	毎日新聞	'92. 2. 10	ハーブ茶の中に既に発がん抑制効果が確認されている酵素SOD（スーパーオキシジスムターゼ）と似た物質が含まれていることに着目。このSOD様物質に抑制効果があるかどうか確かめた。
		長崎新聞	'92. 6. 5	

小松賢志 助教授	弱い中性子線とがんの危険	読売新聞 (大阪版)	'92. 7. 16	原子炉から漏れる中性子線に長時間被爆すると短時間被爆に比較して放射線量当たりのがん比率が高くなることが報告されている。我々の研究は、この結果に皮膚や骨髄など、分裂している組織で特に重要であることを示した。
奥村寛 教授	体内微量放射能測定	朝日新聞	'92. 12. 2	体内の微量放射能を測定し、生体への影響を解析している。チェルノブイリ原発事故で放射能被爆を受けた児童の体内放射能を長崎大学医学部で測定
奥村寛 教授	微量放射線の生体効果 (ホルミシス)	読売新聞	'93. 10. 26	放射線は危険と考えられているが、しかし微量の放射線は、生体を刺激し良い効果をもたらすことが、少しずつ明らかになった。原子力記念日に、市民を対象に発表した。

#### 原爆後障害医療研究施設 後障害治療部門

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
池田柁一 講師	エイズ(後天性免疫不全症候群)(上)	長崎新聞	H 4. 6. 5	血友病AのHIV感染の調査、臨床的対応を研究し、社会にエイズの知識を普及した。
〃	エイズ(後天性免疫不全症候群)(下)	〃	H 4. 6. 19	〃
〃	エイズについて	長崎市医師会報	H 4. 11	HIV感染に対する医師の対応を解説した。

## 原爆後障害医療研究施設 先天異常部門

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	掲載内容の概要と社会との関連
新川 詔夫 教授	一過性骨髄異常増殖症	読売新聞	1989-10-4	一過性骨髄異常増殖症の発生機構の研究で得た新知見の紹介記事
	ゲノム刷り込み	愛媛新聞	1993-10-29	ゲノムインプリンティング現象と単為生殖防止機構の説明と啓蒙
	同上	東京新聞	1993-11-2	同上
	同上	京都新聞	1993-11-18	同上
吉川 勲 助教授	HZE および宇宙放射線の遺伝的影響	読売新聞	1992-7-21	スペースシャトル/エンデバー一号にショウジョウバエを搭載し、宇宙放射線の遺伝的影響を調べる実験に関して報道
	同上	西日本新聞	1992-10-6	同上
	同上	朝日新聞	1992-11-29	同上
	同上	NHK衛生第1テレビ	1993-1-1	同上
	同上	NHK総合テレビ	1993-9-9	

## 原爆後障害医療研究施設 発症予防部門

氏名・職名	研究課題	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
山下 俊一 教授	チェルノブイリへ医療協力	毎日新聞	'91. 4. 16	チェルノブイリ国際医療協力
同上	チェルノブイリプロジェクト	毎日新聞	'91. 8. 8	チェルノブイリ国際医療協力
同上	チェルノブイリ原発第一回シンポジウム	読売新聞	'92. 7. 2	チェルノブイリ国際医療協力
同上	チェルノブイリプロジェクト	西日本新聞	'92. 8. 7	チェルノブイリ国際医療協力
同上	世界における被爆者の甲状腺調査	日本船舶振興会 30年のあゆみ	'92. 10	国際医療協力
同上	被曝者医療協力	長崎新聞	'92. 10. 28	長崎被曝者医療協力
同上	チェルノブイリプロジェクト	西日本新聞	'93. 8. 10	医師研修と被曝教育
同上	チェルノブイリプロジェクト	長崎新聞	'93. 8. 11	医師研修と被曝教育
同上	チェルノブイリプロジェクト	毎日新聞	'93. 9. 7	医師研修と被曝教育
同上	チェルノブイリプロジェクト	長崎新聞	'93. 10. 2	チェルノブイリ国際医療協力

原爆被災学術資料センター 資料調査部

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
三根 真理子 講師	被爆者のがん死亡率	長崎新聞	'89. 8. 30	200ラド以上の被爆をした女性においてがん死亡率が高いことを示した。
三根 真理子 講師	微量放射線の人体影響	日本経済新聞 日本経済新聞	'89. 9. 17 '90. 11. 17	50ラド前後被曝した男性のがん以外の死亡率が低いことを示した。
三根 真理子 講師	光ディスクでカルテ管理	長崎新聞 朝日新聞	'91. 7. 5 '91. 8. 3	膨大な健診カルテを光ディスクに登録することにより検索が容易になり、保存スペースの節約に有効である。

原爆被災学術資料センター 病理部

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
岸川 正大 助教授	放射線による加齢の研究	読売新聞	'89. 11. 9	高齢化社会の今日、老人性痴呆が大きな問題となっている。我々は、放射線を照射したマウスの学習試験を行い、放射線と加齢との関係を検討した。
岸川 正大 助教授	老化促進モデルマウス(SAM)における当帰芍薬散の効果—学習能および生態に関する検討—	毎日新聞・朝刊	'91. 10. 24	ヒトの老化現象の動物モデルとして期待されている老化促進モデルマウスを用い、学習障害や寿命に対する当帰芍薬散の効果を検討した。アルツハイマー型老人性痴呆の予防と治療に関する研究として大きな意味があると思われる。

## 内科学第一講座

氏名・職名	研究課題	掲載紙(誌)	掲載年月日	研究内容と社会の関連
長瀧重信 教授	原爆被爆者の甲状腺機能の研究	北日本新聞、 熊本日日新聞、 徳島新聞	'89. 3. 29	被爆線量が低く従来後障害が 予想されなかった被爆群に甲 状腺機能低下症が高率に存在 していることを明らかにした。
長瀧重信 教授	チェルノブイリ原発被害調査 の報告	西日本新聞	'90. 8. 29	チェルノブイリ原発事故調査 団として訪ソ、第一回調査の 報告。
長瀧重信 教授	被爆の低線量被爆による甲状 腺機能低下の研究	読売新聞	'90. 9. 11	低線量被爆で甲状腺機能低下 を引き起こしている可能性を 世界核医学会で発表。
中村龍文 助手	角尾賞授賞	毎日新聞、長 崎新聞	'90. 9. 14	HTLV-Iの脊髄症の病因解 明、治療法の開発に貢献した 事で角尾賞を授賞。
山下俊一 助手	助手から一気に教授へ	西日本新聞社	'90. 9. 13	成長ホルモンの研究で成果を 上げた同氏が助手から一気に 教授に異例の抜擢をされた。
長瀧重信 教授	チェルノブイリ原発被害で本 格的な住民診療開始	長崎新聞	'90. 10. 4	チェルノブイリ原発事故被害 の住民検診、被害調査が本格 的に開始。
長瀧重信 教授	チェルノブイリ医療協力	毎日新聞 毎日新聞 長崎新聞	'91. 4. 15 '91. 4. 16 '91. 4. 19	日ソ政府間覚書WHO、笹川 財団を通じて長崎大学が今ま での研究成果をもとにソ連に おいて研究調査活動を行うこ との記事。
長瀧重信 教授	長崎原爆被爆者の甲状腺疾患	朝日新聞 中国新聞 朝日新聞 朝日新聞	'91. 6. 3 '91. 6. 3 '91. 6. 6 '91. 7. 4	広島で開催された原子爆弾後 障害研究会の特別講演で長崎 原爆被爆者の甲状腺疾患につ いての研究発表の記事。甲状 腺腫瘍および自己免疫性、甲 状腺疾患患者の増加。
長瀧重信 教授	日ソチェルノブイリ甲状腺シ ンポジウム	西日本新聞 毎日新聞 長崎新聞	'91. 11. 6 '91. 11. 6 '91. 11. 6	長崎大学で開催された、日 ソ・チェルノブイリ甲状腺シ ンポジウムで両国間の研究者 が、チェルノブイリ事故で甲 状腺疾患が増加したという科 学的なデータはないと発表し たことについての記事。
長瀧重信 教授	I型糖尿病の治療	西日本新聞 西日本新聞	'91. 11. 14 '91. 11. 15	国際糖尿病免疫ワークショップ の開催時のI型糖尿病の早 期診断、治療法についての記 事。
長瀧重信 教授	チェルノブイリ原発第一回シ ンポジウム	読売新聞	'92. 7. 2	ベラルーシで開催されたシン ポジウムにおける長崎大学と 3共和国の共同研究の成果お よび現地における活動の記事。

長瀧重信 教授	チェルノブイリ原発事故による甲状腺疾患	薬事日報臨床 検査新聞	'92. 9. 25	日本臨床病理学会教育講演として発表した旧ソ連3共和国の甲状腺疾患についての記事。
長瀧重信 教授	橋本病80周年記念国際シンポジウム	Pediatric Endo- crinology News 医学界新聞	'93. 3	橋本博士の偉業を讃えた国際シンポジウム記事。 研究としては橋本病の概念を新しく決定するための研究成果が討論された。
長瀧重信 教授	英国ピッツ・リバーズ記念講演賞、甲状腺疾患研究	西日本新聞	'93. 3. 25	英国内分泌学会受賞講演の記事。演題は自己免疫性甲状腺疾患の成因：研究と臨床の連携。
長瀧重信 教授	チェルノブイリ事故による甲状腺疾患	新潟日報	'93. 6. 11	日露北東アジア医学交流・第一回国際シンポジウム（日露医学医療交流財団主催）の記事の中で長崎大学のチェルノブイリ付近の住民の甲状腺異常の発表を引用。
長瀧重信 教授	小児甲状腺癌増加	西日本新聞	'93. 12. 14	チェルノブイリ長崎シンポジウムの記事。白ロシア。ウクライナ両国で甲状腺癌が増加しているという共同研究の結果の発表。

### 精神神経科学講座

氏名・役職	研究課題	掲載紙(誌)	掲載年月日
中根允文・教授	WHOの国際疾病分類改訂に向けて	週間医学界新聞	1991. 1. 21
中根允文・教授	すこやかに老いる —「老人性痴呆の治療と介護」	長崎新聞	1991. 3. 29
中根允文・教授	実現した自閉症治療薬	週刊朝日GW増大号	1993. 5. 7-14

### 外科学第一講座

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
富田正雄 教授	がんに挑む	西日本新聞	'91. 1. 12	積極的に手術に挑むことが紹介された
中越享 講師	直腸癌に対する外科治療	週刊現代	'92. 9	直腸癌に対する器械吻合法による括約筋温存手術法が紹介された
黒崎伸子 助手	小児外科について	毎日新聞	'93. 10. 30	研究・診療の状況が紹介された

## 皮膚科学講座

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
吉田彦太郎 教授	アレルギー談話室 新春放談	KBC九州朝日 放送	'89.1.1	皮膚疾患について一般向けに 優しく解説する。皮膚科医に よる啓蒙活動の一つである。
吉田彦太郎 教授	アレルギー談話室 アトピー性皮膚炎の皮膚科 的治療	KBC九州朝日 放送	'90.1.21	同上
吉田彦太郎 教授	アレルギー談話室 蕁麻疹の治療	KBC九州朝日 放送	'90.7.15	同上
吉田彦太郎 教授	アレルギー談話室 600回記念	KBC九州朝日 放送	'91.4.7	同上
吉田彦太郎 教授	アレルギー談話室 新春放談——アレルギー性 疾患のこれから——	KBC九州朝日 放送	'92.1.5	同上
吉田彦太郎 教授	アレルギー談話室 慢性蕁麻疹	KBC九州朝日 放送	'92.8.9	同上
吉田彦太郎 教授	アレルギー談話室 新春放談	KBC九州朝日 放送	'93.1.3	同上
吉田彦太郎 教授	アレルギー談話室 しもやけとアレルギー	KBC九州朝日 放送	'93.1.17	同上
吉田彦太郎 教授	アレルギー談話室 皮膚の乾燥とアレルギー	KBC九州朝日 放送	'93.9.12	同上
野中薫雄 助教授	簡単に行える光線テスト	ラジオたんぱ	'90.7.21	同上
大神太郎	アレルギー談話室 紫外線の害	KBC九州朝日 放送	'89.7.16	同上

## 泌尿器科学講座

氏名・職名	研究題目	掲載紙名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
井川 掌 大学院生	肝細胞増殖因子	西日本新聞	'91.11.9	肝臓の再生を促す肝細胞増殖因子(HGF) は腎臓でも再生因子として働いていること を示した
〃	〃	日本経済新聞	〃	

## 産科婦人科学講座

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容と社会との関連
山 辺 徹 教 授	早期癌縮小手術の開発	読売新聞	'89. 10. 31	初期子宮頸癌、早期卵巣癌に対する機能保存のための手術の紹介
〃	子宮頸癌および体癌の早期発見	毎日新聞	'91. 2. 6	子宮頸癌のうち45%は初期にみつかり、細胞診で90%以上発見することができる。子宮頸癌および子宮体癌の老健法検診についての紹介
中 島 久 良 講 師	若年者における卵巣腫瘍の診断	長崎市医師会報	'92. 3. 1	内科や外科といった他科を受診することの多い若年者の卵巣腫瘍についてその実態を報告するとともに、診断の要点をのべ、一般医家への啓蒙をおこなった。
〃	予防の周辺を診る・子宮がん	長崎新聞	'92. 3. 5	子宮がんに対する早期発見・早期治療の有効性を示し、地域住民における子宮がん検診の普及を図った。
〃	予防の周辺を診る・子宮がん県民キャンペーンⅣ、めざせがんゼロ	長崎県国民健康保険国体連合会誌	'92. 3. 31	
増 崎 英 明 講 師	妊婦と水泳	長崎新聞	'89. 8. 5	妊娠中のスポーツが母児に与える影響や目的についてのべ、妊婦に適したスポーツとしての水泳の紹介と、その方法・時期等についてのべた。
〃	一朝のクリニックー 婦人科ひとくちメモ 女性の肥満について(I)	NBCラジオ	'91. 10. 3	婦人と肥満、肥満と性器癌、乳癌、子宮頸癌、子宮体癌、子宮筋腫、子宮内膜症など、婦人とかかわりの深い病態・疾病についてわかりやすく説明し、一般女性への啓蒙を図った。
〃	〃 (II)	〃	'91. 10. 10	
〃	〃 (III)	〃	'91. 10. 17	
〃	〃 (IV)	〃	'91. 10. 24	
〃	肥満と女性性器癌(I)	〃	'91. 10. 31	
〃	〃 (II)	〃	'91. 11. 7	
〃	乳癌の自己診断法	〃	'91. 11. 14	
〃	子宮頸癌について	〃	'91. 11. 21	
〃	子宮体癌について	〃	'91. 11. 28	
〃	子宮筋腫について	〃	'91. 12. 5	
〃	子宮内膜症について	〃	'91. 12. 12	
〃	胎児の生活(I)	〃	'91. 12. 19	
〃	〃 (II)	〃	'91. 12. 26	
〃	マタニティサロン 胎児の生活	KTNテレビ	'92. 9. 7	妊婦の胎内での胎児の生活はどんなものなのか。その知られざる世界をわかりやすく紹介した。

〃	妊娠末期における骨盤位 外回転術	ラジオ短波	'92. 8. 3	新生児障害のリスクの高い骨盤位分娩を減少させる目的で、超音波検査、胎児心拍数陣痛図、子宮収縮抑制剤などを用いて妊娠末期に外回転術を施行し、従来法に比べてより安全で成功率の高い成績を得た。
安 日 一 郎 助 手	妊婦の肥満について	長崎新聞	'93. 4. 19	最近増加傾向にある妊婦の肥満と妊娠合併症との関係について述べ、妊婦の肥満への警鐘をおこさない注意を惹起した。
河 野 雅 洋 助 手	習慣流産	長崎新聞	'93. 12. 7	三回以上連続して自然流産を繰り返す習慣流産について、その原因、診断、治療について概説するとともに、習慣流産という概念を社会に認識させそのような病態に悩む女性への道を開いた。

#### 脳神経外科学講座

氏名・職名	研究題目	掲載紙(誌)名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
柴 田 尚 武 教 授	脳原発性悪性リンパ腫	テレビ東京	'92. 11. 22	脳原発性悪性リンパ腫は、発生要因として免疫不全、低栄養状態、ウイルス感染などが考えられている。従って高齢者に発生率が高く、かつ予後不良であることを、自験例について解説した。

#### 心臓血管外科学講座

氏名・職名	研究題目	掲載紙名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
釘 宮 敏 定 教 授	心臓腫瘍	朝日新聞	'89. 3. 31	心臓に発生する腫瘍の診断と治療につき、実例をあげて解説。
	救急医療について	KTNテレビ	'91. 8. 26	地域医療における救急医療の現状と問題点について、具体的に解説した。
	救急医療の現場から	長崎文化放送 (NCCテレビ)	'92. 9. 23	救急医療の現場で起こるさまざまな問題について、実例をあげて解説した。

#### 輸血部

氏名・職名	研究題目	掲載誌名	掲載年月日	研究内容の概要と社会との関連
上 平 憲 講 師	採血から輸血まで	KTN	'90. 3. 17	安全な輸血医療の遂行には一般市民の参加なくしては成立しないことを採血から輸血での過程を示し解説。